

令和6年度第1回小林市総合教育会議要点録

- 1 日 時 令和6年11月18日（月） 15時00分～16時30分
- 2 場 所 小林市役所 本館3階 第3会議室
- 3 出席者 小林市長 宮原 義久
 教育長 大山 和彦
 教育委員 大部 蘭 智子、廣崎 真美、園田 貞哉、永井 良雄
 関係課 健康福祉部長、こども課長
 教育部長、学校教育課長、社会教育課長、教育指導監
 事務局 総合政策部長、企画政策課長

4 内容

発言者	内 容（要 旨）
事務局	（開会） 事務局から開会あいさつ
市長	（市長あいさつ） 総合教育会議は、市長と教育委員会とが重点的に講ずべき施策等について協議・調整する場である。 本日の令和6年度総合教育会議では、忌憚のない意見をいただき、今後につなげていきたい。
こども課長	（議題） 議題1 放課後を中心とした家庭教育の在り方について 資料に基づき、取組の基本的な考え方、これまでの取組、今後の構想や課題について説明
教育委員	・共働きの世帯が増えており、家庭の教育力が低下していると感じる。学校から家に帰っても、子どもだけという状況では不安になる保護者もいるので、放課後児童クラブが大きな役割を担っている。学校の中に放課後児童クラブがあると、より安心できるのではないかな。 ・放課後児童クラブで、子どもたちが自分たちで考えて遊ぶなど生きる力を育んでほしい。 ・外で遊ばずに家でゲームをする子どもたちが多くなっている。自然と触れ合って、色々な知恵をつけてほしい。また、ゲームをするにしても、ただ好き勝手にさせるのではなく、eスポーツ大会など家庭で目標を持たせる工夫も必要となる。

	・放課後児童クラブに対する補助金が少ないと感じる。人数が少なくなると補助金が減るので、需要があっても運営が厳しくなる。 ・地域のつながりが減ってきており、地域に住んでいる子どもたちでさえも分からない状況になっている。K I T T OこぼやしやT E N A M Uビル等を活用して、地域の人と子ども、親同士の交流を深めていけたら良いと思う。
市長	・放課後児童クラブが学校の中にあるのは、とてもよいと思う。 ・子どもたちが少しでも外で遊ぶ状況を作っていかなければいけない。昔の遊びを地域の人が教えて体験するイベントなどがあってもよいのではないか。 ・補助金は人数で決まっており、年齢の比率も加味されないので、人数が減ってしまうと補助金も減り、運営も厳しくなってしまうので要望をしていかなければいけない。
こども課長 学校教育課長	(議題) 議題 2 不登校対策について ・資料に基づき、取組の基本的な考え方、これまでの取組、今後の構想や課題について説明
教育委員	・新型コロナの影響で学校を休むハードルが低くなっているように感じる。休む理由も多岐にわたるので、学校単位に全てを任せるのは無理があるのではないか。 ・学校に行かなくなると勉強に追いつけなくなり、勉強が分からないうちからまた学校に行かないという悪循環になる。 ・不登校の理由や特徴に応じてパターン化されているマニュアル等を専門家も交えて作成すれば、学校の負担軽減にもつながるのではないか。 ・不登校生徒の保護者のケアも必要となってくる。 ・悩みは一人一人違うので、その子に合った寄り添い方が必要となる。 ・得意なものを見つけ、伸ばすことで周りの人との関わりができ、社会復帰に近づけるようにしてほしい。
市長	・子どもたちにはできれば1人も取り残されてほしくない。今の学校に行きたくなければ、行きたい学校に行ける環境があってもよいと思う。 ・それぞれに得意な分野を伸ばすことが大事である。 ・子どもに様々な体験をさせたり、旅行に連れて行ったりしてほしい。

教育長	・学校を変えて復帰した子どももいる。 ・不登校生徒だけの修学旅行や農業体験を行って、自分たちだけ体験できていないという状況をなくす取組をしていきたい。
事務局	(閉会)